

平成 27 年度 事業実績報告書



ほけよけ神社大祭

社会福祉法人 海士町社会福祉協議会

平成 27 年度 海士町社会福祉協議会事業報告書目次

法人運営に関する事業（会議及び会費・研修会等）	-2-
1. 理事会・役員会・評議員会・監査会・運営協議会・経営会議・職員会議	
2. 会員会費及び篤志寄付等	
3. 会議・研修会等	
4. 視察・実習・講演・掲載	
地域福祉事業	-12-
1. 地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能	
2. 成長段階に応じた福祉学習の推進	
3. 地域における子育て支援体制の充実・強化	
4. 福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援	
5. 地域住民の主体的な参加による生涯現役のまちづくり	
地域支援事業	-15-
1. 出前サロンこぞって	
2. 認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業	
3. 食の自立支援事業	
4. 会食サービス	
5. ふれあい・いきいきサロン	
在宅福祉サービス事業.....	-17-
1. 訪問介護部門	
2. 居住（生活支援ハウス事業）部門	
3. 通所介護部門	
4. 居宅介護支援部門	
5. 福祉用具貸与部門	
保健センター事業	-23-

法人運営に関する事業(会議及び会費・研修会等)

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

①島まるごと福祉の地域づくり

○第 3 期地域福祉活動計画に基づき福祉の地域づくりを行う

○ホームページ・ローカルテレビ等を活用して幅広く福祉の情報を発信する

○福祉学習を推進し、住民の福祉への参加と意識向上に努める

→4 月 11 日に地域福祉大発表を開催し、第 3 期地域福祉活動計画を住民に対し発表した。1 年を通じて福祉×（ ）を意識して活動を行った。

→福祉の情報発信として、ホームページや FB を活用した。あまチャンネルとは福祉チャンネルの開設に向けて協議を行ったが、開設までには至らなかった。次年度も継続協議を行う。あま社協ニュースを発行できなかった。平成 28 年度は職員体制を整備し、年 3 回を目指し発行する。

→成長段階に応じた福祉学習の展開を行ったが、それぞれの段階が繋がらず点で終わった。

平成 28 年度は教育委員会や学校と連携を密にし、成長段階が繋がる福祉学習を展開する

②地域の福祉課題に取り組む

○生活困窮者自立支援法施行に伴い、行政と連携して生活困窮者の相談対応に努める

○海士町の福祉人材不足解消のため、町や関係機関と連携し確保に努める

→社協包摂会議を定期開催し、社協全体で情報収集と共有を行った。日常生活自立支援事業に繋がるケースも発生し、専門員が対応した。生活困窮者自立支援法は行政が行うことになり、事業の連携が図れたとはいいがたい 1 年であった。

→補助金を受けている社会福祉協議会として、当該法人のみならず、町内の福祉人材確保のために会議の参画や、島内外の福祉人材確保イベントに参加した。NPO 法人 UBdobe と連携し、平成 28 年度は海士町福祉人材確保企画「LOVE AMA」を開催。海士町に年間 5 名の福祉職員確保と内部活性を行う。

③災害に強い地域づくり

○海士町防災計画に基づき、行政や各関係機関と連携し災害時における対応マニュアルを作成

○県内外で災害が発生したとき、県社協協定のもと、災害支援として現地に職員を派遣する

→海士町の防災計画策定に意見具申したが、策定委員として参画することができず、災害発生時の社協が培った知識等を生かすことができなかった。次回の海士町防災計画見直し時には委員としての参画を求められた。

→8 月に発生した広島豪雨水害に対して、ボランティア派遣を行う準備をした。島前高校にも呼びかけ 20 名の学生から参加の意思をもらった。結果的に予定していた日には、県外受け入れを中止したために、ボランティア参加はできなかった。共同募金を通じて、義援金を募集し寄付した。

④社協組織の強化

○職員の資質向上に努め、主任を中心とした職員研修システムを構築し個々の評価を行う

○社会福祉法人新会計基準による円滑な会計業務を行う

→福祉魅力化 PJ を立ち上げ、巡の環にコンサルを委託。佐々木、瀧川両主任が事務局となり、職員の意識向上と海士町の福祉の未来をビジョン化することを目的にワークショップ等を行った。全職員を対象にワークショップを行うことで、職員全体の意識があがった。平成 27 年度は「20 年後の自分像とその時海士町の福祉はどうなっているか、そのために自分は今から何をするか」を終礼の時間を使って 1 日ひとりずつ発表した。平成 28 年度はその思いをマイプロジェクトとして形作る。

→新会計対応のために、会計の説明会と研修会に参加し、試行錯誤しながら新会計の移行ができた。

1. 理事会・役員会・評議員会・監査会・運営協議会・経営会議・職員会議

(1) 理事会

第1回	平成27年5月27日(水)	趣味の部屋	出席7名
議題	1. 平成26年度事業報告・決算報告について 2. 監査報告 3. 平成27年度第1回補正予算(案)について 4. その他		

第2回	平成27年12月25日(金)	趣味の部屋	出席9名
議題	1. 非常勤報酬費用弁償規程の一部改正について 2. 経理規程の一部改正について 3. 平成27年度第2回補正予算(案)について 4. 個人番号取扱要領について 5. その他		

第3回	平成28年3月24日(木)	趣味の部屋	出席9名
議題	1. 平成27年度第3回補正予算(案)について 2. 職員等の給与等に関する規定の一部改正について 3. 平成28年度事業計画、予算(案)について 4. 評議員の選任について(残任期間 平成29年3月31日まで) 5. その他		

(2) 役員会

第1回	平成27年5月26日(火)	会長室	出席3名
議題	1. 平成27年度 第1回理事会提出議案について 2. その他		

第2回	平成27年12月24日(木)	会長室	出席3名
議題	1. 平成27年度 第2回理事会提出議案について 2. その他		

第3回	平成28年3月2日(水)	会長室	出席3名
議題	1. 福祉人材確保について 2. 平成28年度 職員体制について 3. その他(保健センター改修について)		

第4回	平成28年3月23日(水)	会長室	出席3名
議題	1. 平成27年度 介護保険事業等 経営実績状況 2. 職員人事について 3. 平成27年度 第3回理事会提出議案について 4. その他		

(3) 監査等

- 内部経理監査 5月20日(水) 監査担当 佐々木裕之 伊藤由紀子
- 海士町社会福祉協議会監査会 5月25日(月) 監査員 村上良夫 村尾隆久
- 健康保険・厚生年金資格報酬調査 9月1日(火) 社会保険庁
- 社会福祉法人実地監査 9月4日(金) 島根県健康福祉部 瀧本正樹 吾郷隆
- 財政援助団体監査 11月5日(木) 海士町監査員 中本勝利 上田正子

(4) 評議員会

第1回	平成27年5月27日(木)	趣味の部屋	出席16名
議題	1. 平成26年度事業報告・決算報告について 2. 監査報告 3. 平成27年度第1回補正予算(案)について 4. その他		

第2回	平成27年12月25日(金)	趣味の部屋	出席18名
議題	1. 非常勤報酬費用弁償規程の一部改正について 2. 経理規程の一部改正について 3. 平成27年度第2回補正予算(案)について 4. 個人番号取扱要領について 5. その他		

第3回	平成28年3月24日(木)	趣味の部屋	出席13名
議題	1. 平成27年度第3回補正予算(案)について 2. 職員等の給与等に関する規程の一部改正について 3. 平成28年度事業計画、予算(案)について 4. その他		

(5) 運営協議会(主任会議)

	日 時	議 題
第1回	4月22日(水)	平成27年度事業運営について等
第2回	5月29日(金)	看護職員確保について等
第3回	6月30日(火)	地方創生について等
第4回	7月28日(火)	藤里町訪問について等
第5回	8月26日(水)	健康福祉フェアについて等
第6回	9月29日(火)	あったか交流会について等
第7回	10月26日(月)	アマニチュードについて等
第8回	11月27日(金)	職員の資質向上(研修)について等
第9回	12月18日(金)	福祉魅力化PJについて等
第10回	1月8日(水)	平成28年度事業運営の方向性について等
第11回	2月3日(水)	農福PJについて等
第12回	2月16日(火)	平成26年度事業計画・方針・予算について等
第13回	3月9日(水)	運営協議会から経営会議へ転換

(6) 経営会議 3月9日(水) 平成28年度の事業方針について

(7) 職員会議 3月4日(金)

2. 会員会費及び篤志寄付等

※順不同・敬称略で掲載しています

(1) 会員会費 合計 2,023,200円 (H26 2,087,100円)

○一般会員(年額1,900円) 1,592,200円 (H26 1,651,100円) <納入率93%>

<地区名>	<納入世帯数>	<金額>
菱 浦	158世帯 (158)	300,200円
福 井	30世帯 (35)	57,000円
西	37世帯 (45)	70,300円
中 里	96世帯 (96)	182,400円
東	134世帯 (130)	245,100円
北 分	68世帯 (102)	129,200円
宇 受 賀	66世帯 (66)	125,400円
豊 田	43世帯 (44)	81,700円
保 々 見	25世帯 (25)	47,500円
知 々 井	36世帯 (42)	68,400円
御 波	60世帯 (60)	114,000円
多 井	12世帯 (11)	22,800円
崎	66世帯 (76)	125,400円
日 須 賀	7世帯 (7)	13,300円

※納入世帯()は賛助・特別会員・生活保護・施設入所世帯等を除いた世帯数

○特別会員(1口 10,000円) 340,000円 (H26 330,000円)

<会員名>	<納入額>	<会員名>	<納入額>
飯古建設	100,000円	信栄堂印刷	10,000円
島根県農協海士支店	10,000円	北峯工務店	20,000円
元吉燃料(有)	20,000円	中ノ島クリーンセンター	10,000円
山陰合同銀行海士支店	10,000円	但馬屋	10,000円
八幡鉄工所	10,000円	亀田商店	10,000円
奈伎良海運	20,000円	桑本石油店	10,000円
三好石油店	10,000円	ファミリーショップくわもと	10,000円
わきたに商店	20,000円	ムコヤマ	10,000円
隠岐国商工会	10,000円	ブックスたなか	10,000円
岡田石材店	10,000円	割烹いけだ	10,000円

○賛助会員(年額3,000円以上) 91,000円 (H26 70,000円)

<会員名>	<納入額>	<会員名>	<納入額>
山内 道雄	10,000円	若林 宣男	5,000円
澤田 恭一	5,000円	花岡 重利	5,000円
田中 久夫	5,000円	大森 芳信	5,000円
野津 明子	5,000円	片桐 憲一	5,000円
町議会一同	30,000円	浅野 桃代	3,000円
脇谷 英孝	10,000円	片桐 一彦	3,000円

○団体会員(年額5,000円以上) あま福祉会 10,000円 NPO だんだん 5,000円

(2) 篤志寄付金等

合計 1,260,000 円

○香典返しとして 30 件 1,000,000 円

(H26 1,030,000 円)

<氏 名>

野津 英智
藤田 晴男
松谷 ひとみ
村上 幸壽
梶谷 修一
岡本 稔
島根 元
細川 紀男
平田 秋美
吉田 順子
佐々木紀子
小澤大三郎
板山 次男
空野 房利
竹谷 明
山本 栄善
田仲 松子
前田 拓郎
波多 誠

<氏 名>

福島 長利
石田 益美
宇野 伸二
野津 茂
石田 初美
八旗 鉄夫
中山 輝夫
石田 益美
亀原 定夫
宇野 和福
菰島 伸二

※順不同 敬称略で掲載しています

○篤志寄付金として 7 件 260,000 円

(H26 90,000 円)

<氏 名>

濱見 優子 大前一安近親者
田黒 輝夫 大野 喬司
藤田 利久 松田 和恵
濱 節枝

※順不同・敬称略で掲載していま

ま

3. 会議・研修会等

(1) 役員部門

会議・研修会名	研修月	場 所	参加者
市町村社協会会長・研修会	7月	松江市	榊原信也
社協トップミーティング	8月	松江市	榊原信也
人権同和協議会	10月	西ノ島	榊原信也
隠岐地区社協連絡会	11月	隠岐の島町	榊原信也
市町村社協会会長・事務局長研修	1月	松江市	榊原信也
社会福祉法人監事研修会	1月	松江市	村尾隆久

(2) 会 議

会 議 名	開催月	場 所	参加者
明日の海土を考える会（地域創生）	4月	海士町	片桐一彦
産業おこしの会	4月	海士町	片桐一彦
島根県民生児童委員協議会事務局長会議	4月	松江市	片桐一彦
CSW 役員会	4月	出雲市	瀧川千恵子
産業保健連絡会	5月	海士町	藤田幸子
隠岐老人福祉施設研究協議会理事会	5月	隠岐の島町	片桐一彦
諏訪苑入所判定委員会	5月	海士町	亀谷美也子
明日の海土を考える会視察（湯布院・南小国）	5月	熊本・大分	片桐一彦
障害区分認定審査会	5月	海士町	片桐一彦
みどり会総会	6月	海士町	瀧川千恵子
市町村共同募金委員会事務局長担当者会	6月	松江市	片桐一彦
日常生活自立支援連絡会	6月	松江市	和泉洋三
手をつなぐ親の会総会	6月	海士町	瀧川千恵子
地域福祉推進委員会	6月	松江市	片桐一彦
社会保険事務所説明会	6月	西ノ島	藤田幸子
保健センター改修協議	6月	海士町	片桐・村尾
明日の海土を考える会	6月	海士町	片桐一彦
老施協中国ブロックカントリーミーティング運営委員会	7月	松江市	片桐一彦
わくわく部会	7月	隠岐の島町	片桐一彦
法人合併検討会	7月	海士町	片桐一彦
社会福祉法人 代表者会（人材確保）	7月	海士町	片桐一彦
明日の海土を考える会	7月	海士町	片桐一彦
中国ブロックカントリーミーティング運営委員会	9月	松江市	片桐一彦
明日の海土を考える会	9月	海士町	片桐一彦
県民福祉大会	10月	松江市	瀧川千恵子
保健センター改修協議	10月	海士町	片桐一彦
中国ブロックカントリーミーティング	10月	松江市	片桐一彦
海土カフェ	10月	東京	佐々木裕之
しまね流福祉学習推進事業検討小委員会	11月	松江市	片桐一彦
島根保育協会人材育成委員長協議	11月	松江市	片桐一彦
マイナンバー制度説明会	11月	海士町	片桐・藤田
年末調整説明会	11月	海士町	藤田幸子
アイランダー	11月	東京	片桐一彦
市町村社協戦略会議	11月	松江市	片桐・瀧川
地域支援事業検討会	11月	海士町	片桐他
サービス調整会議責任者会議	12月	海士町	片桐一彦
農福連携事業検討会	12月	海士町	片桐・佐々木

会議名	開催月	場所	参加者
隠岐地域医療保健対策会議	1月	西ノ島	片桐一彦
CSW 役員会	1月	松江市	瀧川千恵子
市町村共同募金委員会事務局長担当者会	2月	松江市	瀧川千恵子
新しい総合事業検討会 訪問介護	2月	海士町	訪問介護
手をつなぐ育成会総会	2月	海士町	片桐・瀧川
地域福祉推進会議	3月	松江市	片桐一彦
海士町自立支援協議会	3月	海士町	片桐一彦
障がい者就労支援連絡会	3月	海士町	片桐一彦
情報発信の会	3月	海士町	片桐一彦
地域ケア会議	通年	海士町	担当者
入所判定会議	毎月	海士町	片桐一彦

(3) 職員研修

○職場外研修 (OFF-JT)

研修会名	研修月	場所	参加者
シナリオプランニング交流会	4月	海士町	片桐一彦
ターミナルケア連絡会	4月	海士町	伊藤由紀子
ひきこもり相談に関する支援者研修	6月	松江市	和泉洋三
島根県老施協通所介護研修会 人事マネジメント	6月	松江市	佐々木裕之
会計実務研修基礎コース	8月	松江市	藤田幸子
五感塾	8月	海士町	岡本真実
介護支援専門員専門研修	9月	松江市	佐々木紀美
腰痛予防研修	9月	隠岐の島町	岡本真実
島根県老施協 訪問介護研修	9月	松江市	村尾佐知恵
社会福祉施設感染症研修	10月	西ノ島	亀谷美也子
感染予防&急変時の対応研修	10月	松江市	村尾佐知恵
島根県老施協研修大会	11月	松江市	佐々木裕之
中堅職員スキルアップ研修	11月	松江市	福田健二
ケアマネ研究大会	11月	松江市	亀谷美也子
社協担当ワーカー実践力強化研修	11月	松江市	藤田幸子
介護支援専門員実務者研修	12月	松江市	佐々木紀美
介護技術研修	12月	松江市	神在祐太
メンタルヘルス研修	12月	海士町	片桐・和泉
メンタルヘルス研修	12月	海士町	瀧川・岡本
ターミナル研修	1月	海士町	伊藤由紀子
会計研修決算コース	1月	松江市	藤田幸子
CSW 実践研修	1月	松江市	瀧川千恵子
市町村社協会長・事務局長研修	1月	松江市	片桐一彦
介護支援専門員実務研修	1月	松江市	和泉・伊藤
土佐町集落福祉セミナー	2月	土佐町	片桐・佐々木
介護支援専門員実務研修	2月	松江市	和泉・伊藤
介護保険サービス事業者集団指導	3月	隠岐島町	事業主任
ターミナルケア連絡会	3月	海士町	福島・村尾
障害者福祉サービス事業所集団指導	3月	松江市	片桐一彦
高齢者虐待防止研修会	3月	松江市	岡本・佐々木
巡カレッジ	3月	海士町	片桐・佐々木

○復命研修

研修会名	研修日	参加人数	講師・発表者
共力して楽しい組織	7月10日	28名	佐々木裕之
認知症研修	8月6日	26名	小新幸晴
腰痛予防研修	9月29日	27名	岡本真実
感染予防と急変時の対応について	10月13日	27名	村尾佐知恵
感染予防は日ごろの備えが大事	10月23日	23名	亀谷美也子
口腔ケア研修	11月12日	26名	福島敏枝
ユマニチュード研修	11月17日	28名	岡本真実
通所改革及び個の変化	11月18日	26名	佐々木裕之
組織・チームレベルを向上するために	12月7日	23名	福田健二
2025年に向かう制度改革	12月17日	25名	亀谷美也子
意思をもって意識を変える	12月25日	27名	佐々木紀美
持ち上げない介護技術	1月12日	26名	神在祐太
地域福祉を推進するために	2月2日	20名	瀧川千恵子
今後求められる役割とは？	2月22日	25名	藤田幸子
地域づくりとしての総合事業	2月24日	23名	瀧川千恵子
病的ギャンブルと支援について	3月30日	24名	和泉洋三
それっておかしい！虐待かも	3月31日	21名	岡本・佐々木

○職員研修

- 「清拭研修」4月27日（月）訪問介護職員10名
- 「介護食研修」7月31日（木）訪問介護職員8名
- 「アハハ体操」吉永鴻一氏 8月24日（月）通所介護職員
- 「認知症研修」鈴木正典先生 10月15日 通所介護職員
- 「ユマニチュード研修」鈴木正典先生 10月16日 正規職員等 於：開発センター
- 「口腔ケア研修」 11月13日（金）訪問介護職員5名
- 「洗髪研修」11月20日（金）訪問介護職員10名
- 「感染症研修（ノロウイルス対策）」12月7日（月）訪問介護職員6名
- 「清拭研修」1月8日（金）訪問介護職員
- 「オムツ研修」2月8日（月）通所介護職員
- 「エダヒ口塾」幸せ経済研究所所長枝廣淳子先生 3月2日（水）於開発センター
- 「地元学」結城登美雄氏 3月14日（月）8名
- 「タクティールケア研修会」日本スウェーデン福祉研究所 上坂勝芳氏 3月25日5名

○防災訓練

- ・避難訓練 6月24日（水）
- ・救急救命「心配蘇生法」 2月17日（水）18名参加

○福祉魅力化PJ

別紙参照

4. 視察・実習・講演・掲載

(1) 視 察

- ・平成メディカル 福祉用具管理工程視察 村尾 (5月)
- ・明日の海士を考える会 湯布院・南小国町視察 片桐 (5月)
- ・ケアポート吉田 施設視察 片桐 (6月)
- ・琴平町社会福祉協議会視察 職員研修 (7月)
- ・藤里町社会福祉協議会視察 片桐 (8月)

(2) 視察(受入)・体験・実習

- ・巡の環 阿部・植田 デイサービス体験 (4月7日)
- ・トリニティカレッジ出雲視察 (5月1日)
- ・島前高校3年生 ヘルパー体験 (6月1日)
- ・佐渡市社会福祉協議会視察 (6月2日)
- ・知夫村社会福祉協議会 福祉学習視察 (6月22日)
- ・米子市啓成地区民生児童委員協議会視察 (6月27日)
- ・大山町民生児童委員協議会視察 (6月10日)
- ・まちづくり甲子園 福祉体験 (7月29日)
- ・県社協地域福祉部 (8月7日)
- ・島根総合福祉専門学校夏合宿 (8月24日)
- ・武蔵野大学 島学 (9月8日)
- ・鳥取大学竹川ゼミ (9月9日)
- ・藤里町社会福祉協議会視察 (9月12日)
- ・松下政経塾 意見交換会 (9月26日)
- ・日立製作所 意見交換 (10月1日)
- ・東京大学 (10月27日)
- ・UBdobe 海士町視察 (12月7日～10日)
- ・NHK 松江放送局 (1月6日)
- ・島根リハビリテーション学院視察 (3月2～3日)
- ・秋田大学医学部 インターンシップ (3月7～11日)

(3) 講演・実践発表

- ・藤里町地域づくりセミナー「地域づくりの可能性」秋田県藤里町 片桐 (8月)
- ・隠岐保健所 健康づくり活動交流会「海士町社会福祉協議会の組織運営」西ノ島町 片桐 (9月)
- ・Ubdobe SocialGoodPJ「海士町の福祉の取り組みについて」スカイプにて 片桐 (9月)
- ・島の大使館 「海士町の福祉を語る」東京四谷 片桐 (11月)
- ・夢ゼミ 「福祉って何？」隠岐学習センター 片桐 (11月)
- ・介護の福祉現場力を高める研究会「海士町の福祉の取り組み」日比谷公会堂 片桐 (2月)

(4) 掲載・投稿

- ・田舎暮らしの本 (4月)
- ・100人に聞く経済成長についての7つの質問 (5月)
- ・灯台もと暮らし (5月)

地域福祉事業

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

①地域福祉活動計画の推進

- 地域・福祉の啓発イベントを開催し、() ×福祉の意識を住民に広げる
- 成長過程（保育園・小学校・中学校・高校）における福祉の交流・体験を通じた学習を行う
- あいサポート研修を行い、障がいに対する理解を広げる
- 住民向け介護者教室を開催する
- ボランティアセンターの運営を強化し、ボランティア活動しやすい仕組みづくりを考える
→4月11日に地域福祉大発表を開催し、第3期地域福祉活動計画を住民に対し発表する。1年を通じて福祉×()を意識して活動を行った。
→成長段階に応じた福祉学習の展開を行ったが、それぞれの段階が繋がらず点で終わった。平成28年度は教育委員会や学校と連携を密にし、成長段階が繋がる福祉学習を展開する。
→島前高校の福祉学習であいサポート研修をおこなったが、住民向けの研修を開催することができなかった。
→健康福祉フェアで出雲市民病院の鈴木正典先生を招き認知症研修（回想法）を行った。
→ボランティア運営委員会を4回開催しボランティアセンター機能の方向性を確認した。

②生活課題への取り組み

- 「ちょっと気になる」を見逃さない地域実態調査・包摂会議・情報共有を行う
- 新たなつながりや助け合い活動の実施
- 地域福祉活動推進組織への活動支援
- 集落介護員配置のための検証を行う
→民生児童委員と地域調査を実施した。また包摂会議を定期開催し、社協全体で情報収集と共有を行い、日常生活自立支援事業に1件繋がった。
→住民の得意なことを集めた「とくいリスト」を作成したが、集めただけに終わり、「とくいなこと」を生かす活動につなげるまでにはならなかった。
→新しい総合事業を見据え、保々見地区をモデルにお出かけサービスを展開した。
→地域福祉活動計画で最終的に目指す「集落介護員」意識して事業展開を行ったが、検証まではできなかった。福祉の合宿所構想などがスタートし、28年度は新しい総合事業に向けて、形を作っていくたい。

1. 地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能

- 権利擁護等総合相談
(民生融金1件 修学資金貸付1件 日常生活自立支援 1件)
- 日常生活自立支援事業 相談件数 延べ212件
- 生活福祉資金貸付制度 ・生活福祉資金貸付利用者1名(修学資金)
- 民生融金貸付 ・民生融金貸付利用者 1名(償還1名)

2. 成長段階に応じた福祉学習の推進

(1) 幼児期

- ・保育園世代間交流 (6月4日 12月9日)

(2) 小学校

- ・学校訪問 福井小 (4月22日) 海士小 (4月23日)
- ・挨拶運動(民児協) 福井小(5月12日) 海士小(5月18日)
- ・福井小学校 福祉学習 点字(11月)
- ・福井小学校 福祉学習 温泉調査(2月8日)

(3) 中学校

- ・学校訪問 海士中学校(4月22日)
- ・挨拶運動 民児協(5月15日)
- ・サマーボランティアキャンプ 3年生(8月4~5日)
- ・職場体験 2年生(11月24~27日)
- ・奉仕活動・交流ボランティア(12月10日)

(4) 高校

- ・島前高校2年生 地域創造コース(12月~3月)
出前講座(2日間) 福祉体験実習 於:社協 生活支援ハウス(2日間)
発表 手作り薬カレンダープレゼント 酢漬けパーティ(3月10日)
- ・島前高校ボランティア活動(年10回)
- ・まちづくり甲子園(7月29日)
- ・夢探求発表会(1月9日)
- ・夢ゼミ(11月17日)

3. 地域における子育て支援体制の充実・強化

- フリースペース型サロン「温たまたまクラブ」利用人数(延べ)896名 (H26 1,434名)
- 子育てサロン環境整備 ポールのプール新設

4. 福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援

- (1) 民生児童委員協議会事務局運営
- (2) 老人クラブ連合会活動支援
- (3) 海士町身体障害者協会への支援
- (4) 手をつなぐ親の会事務局運営
- (5) みどり会事務局運営
- (6) 海士町共同募金委員会運営

5. 地域住民の主体的な参加による生涯現役のまちづくり

(1) ボランティアセンター運営

①ボランティア運営委員会の開催

- 第1回 平成27年5月2日(火) 第2回 平成27年10月6日(火)
第3回 平成27年11月27日(金) 第4回 平成28年3月29日(火)

②登録斡旋・情報収集と発信

- とくいなこと情報の収集
- IP告知、あまチャンネル、ホームページの活用
- ボランティアの登録(活動保険加入) → 平成27年度登録者157名(H26 109名)
- 民生委員さんとの高齢者宅実態調査実施

③ボランティア活動の支援

- 個人ボランティア活動
 - ・配食用保冷バッグづくり・ゴミ入れカゴ(新聞紙)
 - ・高校生高齢者交流・見守り(デイサービス)
- 島前高校生 社協デイサービス・居住での高齢者交流
- ハーブガーデンボランティア活動 → 相談対応・IP告知とあまチャンネル活用
- 配食ボランティア活動 配食ボランティアの集い → 6/30 ひまわりにて12名参加
- おはぎづくり・配り活動 → 9月19・20日(29名)、3月16・17日(28名)
- 学校ボランティア活動 → 12/10 海士中学校 ひまわり清掃活動とDS利用者へ歌を披露

(2) 生涯現役イベント「ね〜どしの会」の開催

- 日時：11月3日(月) 13:00~15:30
- テーマ：「生涯現役」 ※当日のボランティアスタッフ 43名
- 対象：昭和14年度・15年度生まれで海士町在住の方59名に案内→当日参加者23名
- 事業費：215,000円(共同募金の配分金によるイベント)

(3) 地域福祉活動推進組織への支援

- 北分福祉会 島根県知事福祉のまちづくり表彰 (1月27日)
- 保々見地区お出かけサービスモデル事業実施
- 地区サロン 会食サービス 福祉会の支援

地域支援事業

1. 出前サロン（こぞって） 3地区 57名 (H26 8地区 97名)

日時	5/1	7/24	10/31	1/22	3/23	3/25	計
地区	保々見	保々見	保々見	保々見	多井	西	
人数	10	12	10	10	9	6	57

○事前調査 民生委員と一緒に事前調査

2. 認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業（介護者の集い）47名 (H26 35名)

日時	参加人数	実施内容
6月17日	11名	隠岐の島町遠足
7月29日	6名	アロママッサージ
10月16日	9名	認知症講習（回想法）
12月16日	13名	クリスマス会 よせ植え
2月19日	8名	陶芸教室

3. 食の自立支援事業（月～日曜日） 7,226食 (H26 6,042食)

障がい児見守り配食サービス事業 43食

4. 会食サービス 参加人数（延べ）計 1,000人 (H26 949人)

地区	実施回数	延べ人数	実施内容
菱浦	5	99	交流活動等
福井	6	115	花見 クロリティ大会等
中里	6	144	ペタンク・クロリティ大会 会食 忘年会等
東	6	207	一夜研修 クロリティ大会 健康教室等
北分	6	120	クロリティ大会 食事会 カラオケ等
宇受賀	6	190	会食 ゲーム 遠足等
崎	6	125	交流活動 交通安全教室等

5. ふれあい・いきいきサロン 参加人数（延べ）計 1,646 人 （H26 1,723 人）

○ふれあい・いきいきサロン代表者会 3月9日（水）

グループ名	実施回数	延べ人数
菱浦にここ会	11	168
いきいきサロンふくい	12	150
中里なかよし会	12	144
東いきいきさわやか会	3	123
北分いきいき友の会	7	220
ふれあい宇受賀	10	236
知々井いちょう福祉会	5	150
御波すずらの会	11	112
多井よら～や会	15	199
崎野菊の会	12	144
計	98	1,646

在宅福祉サービス事業

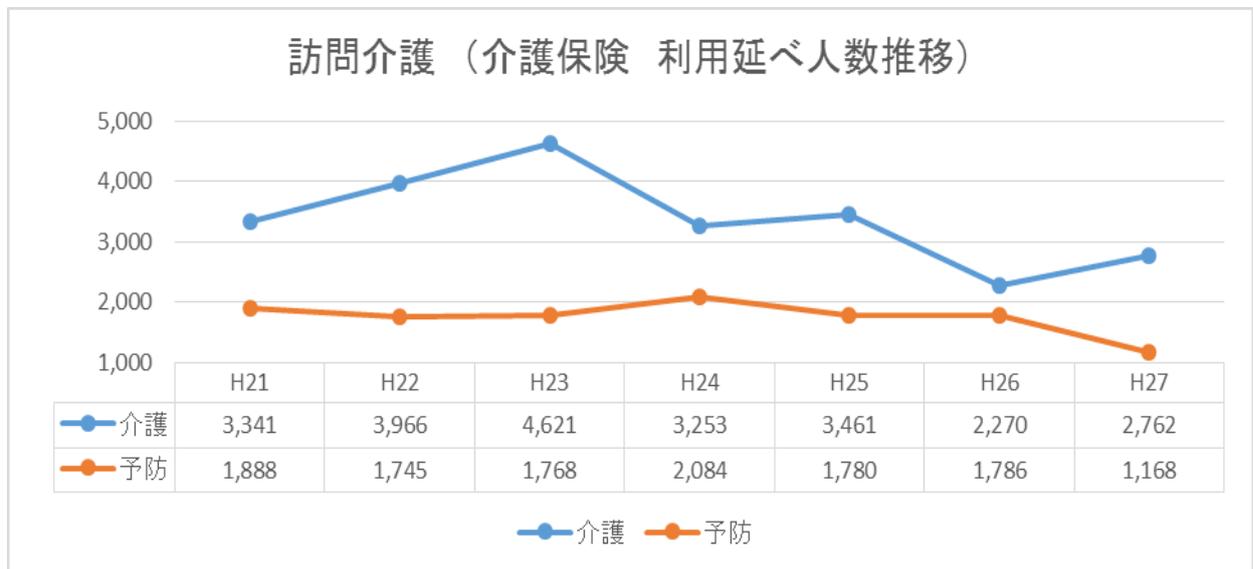
1. 訪問介護部門

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

- ① 認知症や障がい支援、ターミナルケアの勉強会を通じてスキルアップを目指す
- ② 円滑なシフト管理を行い、利用者の多様なニーズに対応できるチームをつくる
→利用者の多様なニーズに対応すべくテーマ別に訪問介護部門独自の研修会を定期的開催、必要な技術を自己研鑽した。また、診療所と連携したターミナルケアの勉強会を実施した。
- ③ 定例会や日々の記録等を充実させ、職員の情報共有を図る
→年 20 回連絡会を開き、連絡ノートを活用しながら、常に情報の共有を図った。

(2) 利用実績

介護保険	稼働時間（介護）	利用人数（介護）	稼働時間（予防）	利用人数（予防）
平成 27 年度	2,056 時間	2,762 人	1,114 時間	1,168 人



○精神障がい者居宅介護（H27 実績 利用延べ人数 72 名 稼働時間 90.5 時間）

2. 居住（生活支援ハウス）部門

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

- ① 入居者の多様なニーズに対応ができるよう新たな仕組み作りを行う
→入居者の生活状況に合わせた支援を展開した。特に、骨折や病状で一時的に安静が必要になった方の対応を家族と連携とりながら行った。また必要に応じてサービス計画の変更や追加をした。
- ② 火災等に備え避難訓練（夜間想定含）を行う
→夜間火災を想定した非難訓練を実施、また感染症蔓延（ノロウィルス等）予防と対策研修会を行った。
- ③ 入居者の交流活動を季節ごとに行い、健康で安心して生活が送れるよう努める
→春の国賀遠足（6月11日）敬老を祝う会（9月17日）初笑い食事会（1月15日）を開催。また、1～2月まで大根の酢漬けづくりを行い、翌年度にむけて畑を整備した。

（1）利用状況

○入居者数 18 名（3月31日現在）退居者 3 名（他の施設へ） 新入居者 3 名

○利用者介護度状況

	認定外	支援 1	支援 2	要介 1	要介 2	要介 3	要介 4
H27	3	3	3	6	3	0	0

○ショートステイ 2 名利用

（2）居住連絡会の開催 毎月第一木曜日 16：00～17：00 年 10 回開催

（3）入居者家族との面談の実施

○入居者家族の帰省等にあわせて実施

（4）情報発信・広報発行

○入所者の家族向けの広報「スマイル」発行 年 1 回

○社協のホームページにて交流などの様子を掲載

3. 通所介護部門

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

- ① 職員の意識改革を行い、制度理解や技術等のスキルアップができる研修体制を作る
→制度の理解は職員全体の復命研修で習得し、技術研修はチームで排泄研修を行った。また、OFF-JT や訪問介護部門の研修会に参加しスキルアップを図った。今後は介護の専門技術はもとより、他業種の交流や研修に参加し、暮らしを支える視点の習得を目指す。

- ② 業務マニュアルを整備し、ここの行動を明確にする
→業務は日程表で日々の確認を行ったが、業務マニュアルの作成にいたらなかった。

- ③ チームワークを意識し、目配り・気配りができる職員を OJT を活用しながら育成する。
→「共力して楽しい組織」を目標にチームワークは向上したが、目配り・気配りを心がけ、現場の気づきを習熟し、更なるチームワーク強化を図りたい。

- ④ 職員一人ひとりがプロ意識を持ち、ディスカッションを行いながらサービスの向上に努める
→部会や終礼時間を活用して利用者のケース検討を行い、ケア方針を話し合ってきたが、積極的に思いや考えを発言できる場作りができなかった。

(1) 部会（担当）の編成・運営

○レクリエーション 療法部門

- ・花見（4月） ・七夕（7月） ・ハワイ週間（8月） ・あったか交流会（10月）
- ・クリスマス会（12月） ・節分（2月） ・雛祭り（3月） 読み聞かせ・貼り絵（通年）

○機能訓練部門

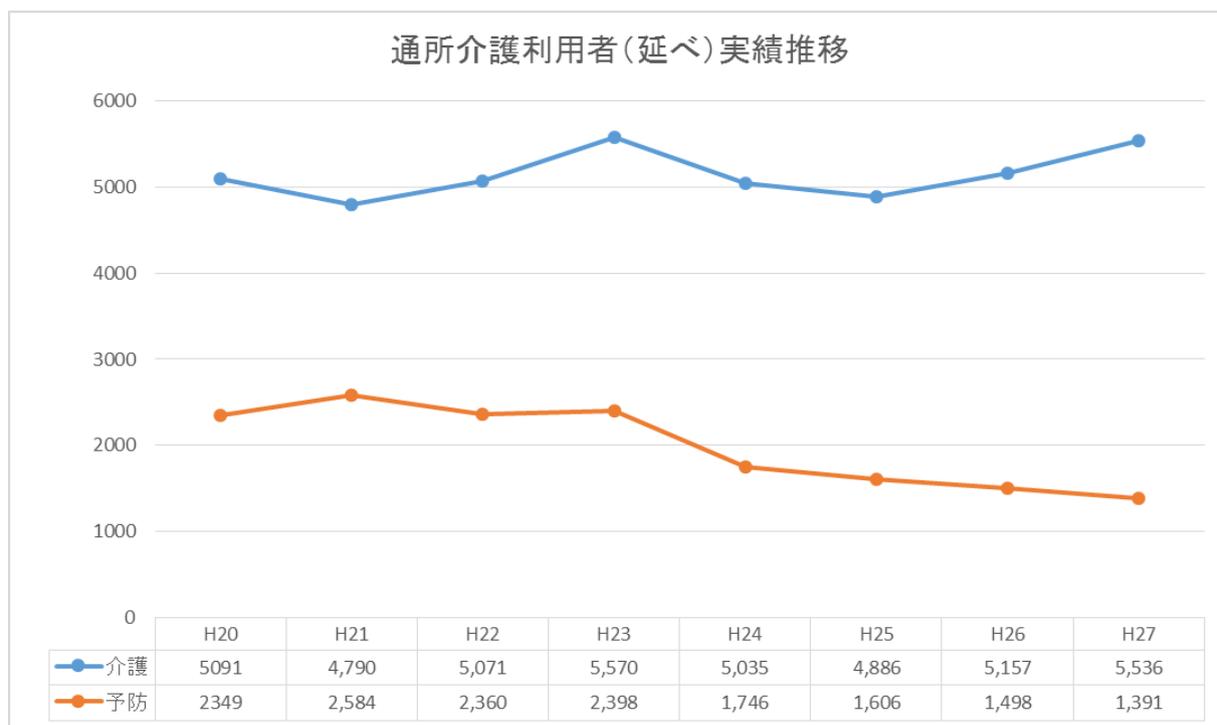
島前病院作業療法士指導 2ヶ月／回

(2) 交流事業

- オキフレンズ演奏会 （4月22日）
- かわず太鼓 演奏会 （6月16日）
- 民生委員デイサービス交流会 （1月18日）
- 福祉学習・体験実習受入（※視察受入・体験・実習 及び地域福祉事業 福祉学習参照）

(3) 利用実績

	介護給付	予防給付	認定外者 DS	出前 DS	障がい DS
平成 27 年度	5,236 人	1,391 人	499 人	15 人	50 人



4. 居宅介護支援部門

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

① 地域包括ケアシステムを充実させ、医療機関等の連携強化を図る

→本土や島前病院の入退院は島を離れているため、情報の共有を強く図り在宅支援につなげることができた。今後、海士診療所を含め医療機関とのコミュニケーションをとり連携強化に努める。

② 個人データファイルの適正に管理し、チームでケアプランの点検・共有を行う

→居宅の連絡会を定期的で開催（年 22 回）し、利用者状況の共有や課題解決に向けて協議することができた。また、事業所内の研修やケース検討を定期的で開催し、アセスメント力の向上や病理理解など専門職としての力量の向上に努めた。

個人ファイルを整理し共有できやすくした。今後も点検・補完に努める。

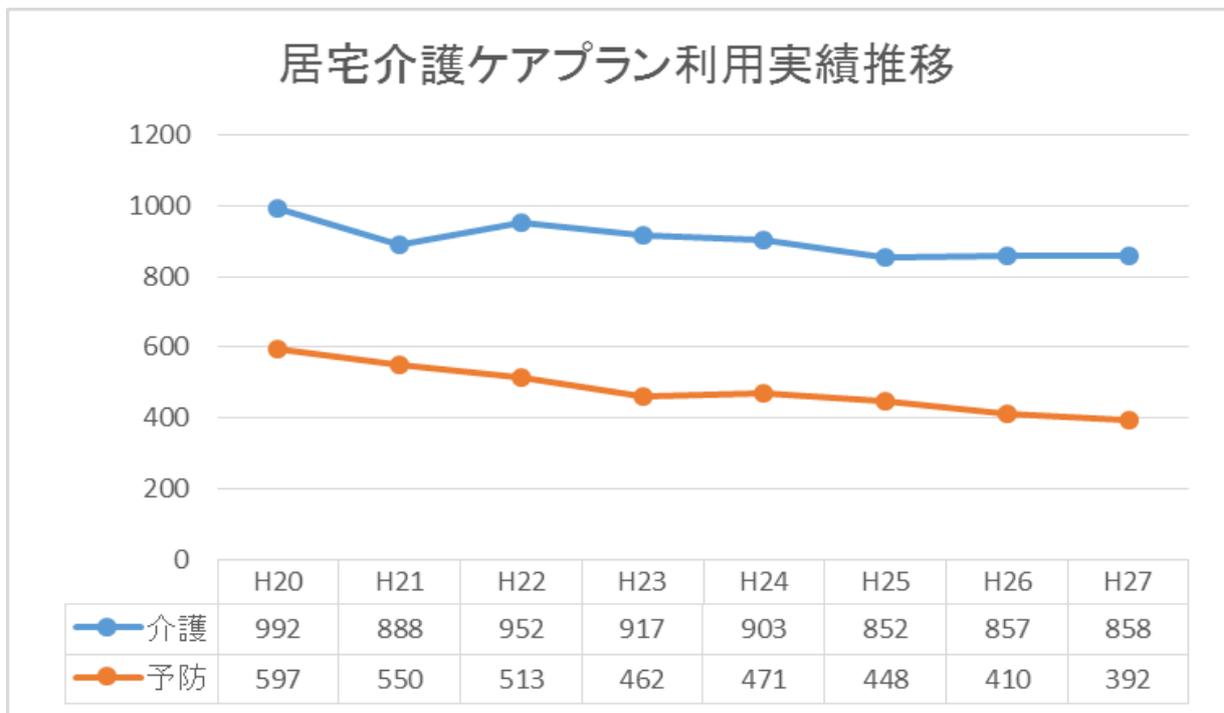
③ 総合相談窓口としての機能を果たし、住民が気軽に相談できるよう努める

→包摂会議に参加して情報の共有を図り、介護保険の相談に限らず、身近な相談窓口として住民の相談対応を継続して行った。

④職員の資格取得（介護支援専門員）のためにチームで人材育成を図る

→2名の職員が資格取得することができた。

(1) 居宅介護（予防）利用実績



5. 福祉用具貸与部門

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

- ① 利用者に対し迅速に福祉用具が提供できるようシステム強化を図る
→緊急利用希望の特殊寝台はストックを確保し対応することができた。
- ② 取扱い説明を丁寧に行い、定期的な訪問により福祉用具の適正利用を促す
- ③ 最新の福祉用具の情報収集に努め、利用者の身体状況に適した福祉用具を提供する
→利用者宅での担当者会議を行い、利用者に適した用具を迅速に提供できるよう心がけた。

(2) 利用実績

利用実績（年間貸与延べ台数）

	特殊寝台 (電動ベッド)	付属品 (ベッド付属)	褥そう予防具 (エアマット)	車いす (電動含)	スロープ	歩行器	手すり
平成 27 年度	96	228	12	194	3	149	176
平成 26 年度	69	161	12	192	26	131	112
平成 25 年度	82	183	12	197	6	108	71
平成 24 年度	121	277	1	229	7	97	63

保健センター事業

【平成 27 年度の重点目標・計画の評価】

① 大規模改修を見据えた管理運営を行う

→新しいエアコンへの改修、雨漏りの修繕を行った。地下を通る水道管の漏れが発見され、来年度改修を行う。定期的に役場と改修の協議を行った（年 4 回）

② 専門部会を毎月開催し、利用促進の企画を行う

→5 月に職員ボランティアでエアコンフィルター清掃を行った

→ぼけよけ神社を建立し、保健センターのシンボルとして利用者に喜んでもらった。7 月 23 日には大祭を行った。

③ 福祉避難所として災害に備えた施設整備と防災訓練を行う

→非常用発電地を整備し、停電に備えた。しかし、避難所としての備品整備にいたらず、役場と協議し、非常時に備えた備品の確保に努める。

夜間の火災想定避難訓練を実施した。

(1) 施設衛生活動

- 清掃ボランティア活動（海士中学校・海士ライオンズクラブ等）
- ハーブボランティア活動及び花壇整備
- 全職員による館外清掃（草抜き等）

(2) 各設備点検及び水質検査の実施

- 水質検査（1 回／月）
- レジオネラ属細菌検査（2 回／年）
- ボイラー点検（2 回／年）
- ろ過器点検（1 回／年）
- 電気設備点検（5 回／年）
- 消火用設備点検（2 回／年）

(3) 各種団体の施設利用支援と発表

- 海士小学校プール教室（7・8 月）
- 海士町教育委員会生活合宿事業（7 月）
- 島前高校テニス合宿 ヒトツナギイベント（8 月）
- 海士町児童交流事業
- 運動教室事業（プール・エアロビ 1 回／月）
- 放課後児童クラブプール事業（7～8 月）
- 島根県社会保険協会 温泉利用事業
- 公立学校共済組合施設利用助成事業

(4) 利用実績

